

ブナの里

黒松内町添別のブナの樹に咲いた愛らしいブナの花

写真提供：黒松内町ブナセンター

- ◇ 2024年度 法人事業計画 P2~3
- ◇ 法人各事業所の2024年度事業計画 P5~10
- ◇ 2024年度 辞令交付式・新任職員研修 P11

2024年度事業計画

社会福祉法人黒松内つくし園 理事長 大代 貴輝

1 事業方針

ガバナンス強化や事業運営の透明性向上、財務規律の強化、地域での公益的取組の充実などが社会福祉法人に求められます。制度に対応した組織作りと内部統制・本部機能強化に取り組んできましたが、本部集中化・事務ICT化をさらに推進してまいります。

本年度は、原点に立ち返り、利用者サービス・満足度向上のため、役員一同が共有し事業運営を行ってまいります。社会福祉法人を取り巻く環境は一層厳しさを増している中、法人事業の再編・統廃合などを含めた、経営の健全化に向けた事業再編への取り組みを進め、社会福祉法人としての役割と使命を果すべく、事業運営と社会貢献に向けて取り組んでまいります。こうした状況の中、当法人は以下の方針のもと事業経営に取り組みます。

*法人基本理念・倫理綱領に沿

った事業展開を行う。

*利用者・職員・地域住民の幸せを実現するため事業を行う。

*法人一体経営への取り組みや本部機能強化・ICT化を推進する。

*健全経営に向けた適正人員配置や経費削減への取り組みを進める。

*各事業の今後の方向性を検討し、効率的な事業運営への取り組みを行う。

2 本年度の運営方針と取り組み

(1)利用者主体の良質な自立支援サービスを提供し、適切なケア体制の確立と施設サービス・利用者満足度の向上を図る。

(2)中長期ビジョンと各福祉事業の今後の方向性を検討し、健全経営へ向けた取り組みを段階的に行っていく。

(3)倶知安地区の事業休止へ向けて最善を尽くし、今後の運営体制への移行をしっかりと実施していく。

(4)緑ヶ丘ハイツ経営改善へ向け

での取り組みと、老人福祉サービス事業の今後の在り方をしっかりと検討し、今年度中に方針決定していく。

(5)人材確保が困難を極める中、採用活動と職員定着・育成のための取り組みを強化し、働きやすい職場環境づくりへの取り組みをさらに行っていく。

(6)本部機能強化・事務ICT化の取り組みを加速し、適切な運用開始へ向けた取り組みをさらに進める。

(7)D&Iの推進とSDGsへの取り組みを進め、企業価値向上と発信力強化へ向けた取り組みをさらに行っていく。

(8)地域福祉の推進と社会貢献事業への取り組みを継続して実施する。

3 本年度の重点目標（抜粋）

(1)サービスの質の向上と利用者満足度アップ

①基本理念と法人倫理綱領のもと「利用者主体」「自立支援」に向けた良質なサービス提供へ向けた取り組みを法人全事業所で継続する。

②虐待防止、不適切な支援防止を徹底し、虐待発生件数ゼロに向けて、各事業所で指針の徹底

と防止マニュアル等の策定、虐待防止研修や会議・委員会等で職員への周知と教育強化、意識向上・啓発を行っていく。

③介護ロボット導入推進を図り、介護・見守り機器や介護記録支援システム等のICT化をさらに進め、サービス向上と業務効率化に向けて取り組む。

(2)健全経営へ向けた取り組みの強化

①昨年度策定した5ヶ年中期事業計画と経営方針を再確認し、健全経営を最重要課題と位置付け役員が共有し取り組む。

②介護保険・障がい福祉サービス報酬改定に対応した運営体制づくりを進め、加算取得や減算回避により事業収入増加を目指す。

③電気・燃料費や介護・衛生用品、消耗品等の物価高騰等が著しい中、健全な法人運営に向けてコスト削減やより安価な物品確保を検討・実施する。

④昨年度決定・推進した倶知安地区の事業休止・廃止へ向けて今後の運営体制への移行をしっかりと実施していく。訪問介護事業廃止に続いて、今年度秋までに認知症グループホームと就

労支援事業所陽だまりの運営を終え、陽だまり利用者の羊蹄セルプへの移行と今後の支援体制整備をしっかりと行う。

⑤緑ヶ丘ハイツの運営状況が厳しい中、今後の運営方針と事業展開を早急に検討し、健全経営へ向けた方策を今年度中に実行していく。

(3) 法人事業再編と適正な事業所運営体制の確立

①厳しい見通しである老人福祉事業の再編を本格的に検討・実施する。4月から訪問介護事業所「黒松内つくし園ヘルパーステーション」を休止。黒松内町及び他法人事業所との協議をさらに進めていく。

②介護保険事業所間での利用者情報の連携等を行い、一体的な事業展開とサービス提供体制確保、稼働率向上に繋げる。

③児童養護施設における小規模化・地域分散化により、2024年4月から黒松内つくし園の定員70名を60名に減員する。

④人材確保・定着・育成と働きやすい職場づくり

①法人各事業所の適正配置・人員計画に基づいた採用活動を行うっていく。特に、老人福祉事業

の再編を進める中で、法人内異動を活性化させ、過剰配置事業所からの職員異動を検討・実施する。

②2024年4月新卒採用10名、既卒者7名の計17名を確保（大卒3名・専門学校5名・高卒2名）

③外国人介護人材について、特定技能インドネシア人5名が8月頃着任となる予定である。

③福利厚生制度を広く職員に理解してもらうため、キャラクターを用いたパンフレットを作成し全職員に配布。職員の定着と働きがいのある職場づくりをさらに進める。

④職員のケアのため、内部通報窓口の他に、外部相談窓口を設置。私的な相談の他に各種ハラメント、虐待事案への相談も受け付け、職員のメンタルサポートをしっかりと行っていく。

(5) D&I・SDGsへの取り組みと発信力強化

①男女不平等・女性差別やハラメントなどを排除したジェンダーレスへの取り組みを具現化していく。

②D&Iを高めて変化を促す組織風土づくりを推進するとともに、

多用化した社員の活躍を促す能力開発、評価の仕組みづくりを検討していく。

③女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画」を策定し、女性職員の活躍と管理職育成に取り組んでいく。

④2024年4月見込みでベトナム人10名、カンボジア人9名、インドネシア人20名、ネパール人1名、中国人1名と、合計5ヶ国41名の外国人が在籍。職員交流の促進と、地域社会との積極的交流等を支援するなど、多文化共生社会への取り組みを法人・事業所で協力してさらに推進する。

(6) 法人本部集中化・事務ICT化の実現

①財務会計システムの移行を今年度中に完了。各事業所事務負担軽減と正確な会計処理、効率性向上をさらに推進していく。

②人事・給与システムの運用を本格的に開始し、法人本部集中化をさらに推進する。

③各事業所でICTを活用した支援システムや機器の導入を加速させ、サービス向上と事務負担軽減・作業効率アップを図る。

(7) 地域貢献事業の推進

①法人各事業所で社会貢献事業基本要綱をもとに公益的取組を実施する。また、地域福祉のさらなる推進と地域住民・利用者・職員の交流を図る。

②黒松内町・倶知安町・京極町・泊村での地域貢献事業の実施を継続し、地域住民と施設利用者・職員との交流を深める。

③一時保護委託の受入れ、土曜児童保育、生きがいデイサービス事業、配食サービス、奨学資金支給制度等の社会貢献事業を継続していく。

④ボランティア・インターンシップ・施設見学、就労体験・福祉実習・利用体験等の受け入れを積極的に行う。

⑬今年度より京極町の「地域生活支援拠点事業」を受託し、地域におけるバックアップ施設として、柔軟な受け入れ体制を整備する。

⑭泊村むつみ荘で、高齢世帯向けの配食サービスを村から受諾し実施する。平日の夕食の提供と利用者の安否確認を行い、泊村と協力して地域住民への食の提供と地域福祉向上への取り組みを行う。

施設長・副施設長名簿

社会福祉法人黒松内つくし園

2024年4月1日 現在

施設名	職名	(ふりがな) 氏名	就任年月日
児童養護施設 地域小規模児童養護施設 子育て短期支援事業	施設長	ふじ 藤 田 つよし 剛	2023年4月1日
養護老人ホーム 短期入所生活介護事業 特定入居者生活介護	施設長	おか ひさ けん いち 岡 久 健 一	2023年4月1日
訪問介護等事業 居宅介護支援事業 老人ディサービス事業	施設長	おか ひさ けん いち 岡 久 健 一	2023年4月1日
福祉型障害児支援施設 短期入所事業 移動支援事業	施設長	と 富 がし こう き 櫻 孝 貴	2021年4月1日
児童ディサービス 日中一時支援	施設長	と 富 がし こう き 櫻 孝 貴	2021年4月1日
障がい者支援施設 短期入所事業 就労支援事業 共同生活援助	常務理事 ・施設長	あそ べ 真 すみ 遊 部 眞 澄	2018年4月1日
特定相談支援事業所 特定相談支援事業所	常務理事 ・施設長	あそ べ 真 すみ 遊 部 眞 澄	2018年4月1日
障がい者支援施設 短期入所事業	施設長 副施設長	く 工 どう あつ こ 藤 敦 子 せい の のぶ あき 清 野 の 伸 晃	2018年4月1日 2018年4月1日
特別養護老人ホーム 短期入所生活介護事業	理事・施設長	よし だ たけし 吉 田 剛	2021年4月1日
診療所	廃止		
認知症グループホーム 就労支援事業 福祉ホーム 居宅介護等事業 居宅介護等事業障がい 移動支援事業 共同生活援助 就労支援事業B型 生活支援ハウス	施設長	おお せこ たく や 大 迫 拓 哉 (兼務)	2020年4月1日
無料又は低額介護老人保健施設 ユニット型介護老人保健施設 短期入所療養介護	総合施設長	はら しゅう いち 原 修 一	2018年10月1日
通所リハビリテーション 訪問リハビリテーション	施設長	しま ひろ し 嶋 宏 志	2023年4月1日
養護老人ホーム 短期入所生活介護事業	理事・施設長	しづ や つよし 澁 谷 剛	2015年4月1日
特別養護老人ホーム 短期入所生活介護事業 短期入所生活介護障がい	副施設長	やま なか ち よ 山 中 幸 代 (兼務)	2020年4月1日
養護老人ホーム 短期入所生活管理指導事業受託事業	施設長	たか はし ひで とし 高 橋 英 俊	2020年4月1日
特別養護老人ホーム 短期入所生活介護事業	副施設長	の ぎき さち お 野 崎 幸 男 (兼務)	2022年4月1日
認定こども園	施設長	さ とう み ず き 佐 藤 美 次 喜	2020年4月1日
社会福祉法人黒松内つくし園 法人本部	常務理事・ センター長 部 長 部 長 部 長 事務長	あそ べ 真 すみ 遊 部 眞 澄 さ さ つかさ 佐 々 木 司 おか だ かず ゆき 岡 田 一 之 おい きり さ お り 追 切 さ お り お 小 がわ のぶ お 川 展 生	2019年6月25日 2023年4月1日 2023年4月1日 2023年4月1日 2023年7月1日

(福)黒松内つくし園各事業所 2024年度事業計画

「笑顔あふれる日常生活を送るために！」

〜黒松内つくし園〜

2023年4月、こども家庭庁の創設とこども基本法が施行され、こども施策に基本理念を定め国の責務等を明らかにしました。2020年3月に「社会的養育推進計画」が策定されたことと合わせて施設機能強化も求められています。当施設においては前年度、岡久前施設長が定年退職となり新たな体制で船出を切りましたが、その船出は厳しく、思うように事業を展開することはできませんでした。

今年度については、本園の定員を10名減員して60名とし、職員数に合った児童数を受け入れ、支援の質の向上に努めてまいります。また、小規模化に向け委員会で具体的な方向性を示していきます。合わせて、安定した経営のため職員の確保が急務であることから、関係機関との連携や実習生への積極的なアプローチ、各学校へボランティア参加の案内をする等、法人人材センターとも連携しながら職員確保に努め、中途採用者の雇用も積極的に行ってまいります。また、永年勤続できる職場づくりや人材育成のための組織体制（役職員の役割）の見直しを図ってまいります。



児童の支援としては、継続して権利侵害が起きないように園内研修の内容を強化し、苦情解決・意見箱・子ども会アンケート等を通して支援の向上に努め、全職員が同じ意識で取り組んでいくとともに毎月の振り返りを継続し、児童が安全・安心な生活を送れるように支援してまいります。

「できるを目指さず・できるように保育へ！」

〜認定こども園黒松内保育園〜

黒松内町唯一の就学前施設としてこどもたちを養護・保育し、教育・保育両面の機能を生かした認定こども園（保育所型）の運営に努めてまいります。子ども達一人ひとりの個別の発達に応じて「10の姿」を目指し、自発性を大切にすべく保育をこれまで以上に進めてまいります。また、併設している「支援センターさんさん」の子育て支援の役割も十分に果たせるよう、関係機関と連携を深め、保護者のご意見をとり入れて地域に根ざした事業となるよう努めてまいります。

◎今年度の重点目標

- (1) 保育指針・幼稚園指導要領に基づく保育課程の実践保育要領に則った保育課程を進め、子どもたちの成長をサポートする
- (2) 感染予防と安心安全な環境の確保、感染予防対策を徹底し、園児の生活を安心して送ることができるよう努める
- (3) 黒松内町の「人・物・自

然」の良い環境を活かしながら、地域の方々との連携を図り、子ども達の健やかな成長をサポートする(4)職員が働きやすい職場を目指し、業務改善に取り組み、人材育成の一環としてweb研修を活用してスキルの向上を図る(5)黒松内町や小学校などの関係機関との連携を一層進め、小学校との探検・参観などの交流を図る(6)夏の猛暑対策としてお遊戯室やホールにエアコンを設置し、園児が快適に過ごせる環境を提供する(7)保育園での地域子育て交流の場として



「みんなが笑顔でいられる最高の生活の場、
職場づくり」
〜緑ヶ丘老人ホーム〜

施設全体の長所や機能を最大限に生かした運営を進めるため、職員が一致団結して取り組んでまいります。常に利用者一人ひとりの気持ちを大切に、利用者の笑顔のために、安心安全で良質なサービスの提供に努めます。拠点全体において利用者の確保、稼働率の向上、職員の確保、育成、日々の経費等の削減に取り組みます。感染症についてもこれまで通り徹底していきます。

一方、養護部門、通所事業、



居室 支援 事業 所で 是 しい 経営 状況 とな っ て おり、 訪問 介護 事業 は3月末で休止。その他の事業

についても黒松内町や関係機関と協議し、今後の事業展開・再編等を検討し、健全経営に努めてまいります。しかし、基本姿勢は変わらず、地域の高齢者の方々が安心して住み慣れた自宅で一日でも長く生活できるように支援を目標に、利用者・ご家族から常に頼りにされる事業所として位置付けられるよう研鑽してまいります。

◎今年度の重点目標

- (1)各部門とも利用者確保・稼働率の向上に努める
- (2)施設サービスの質の向上への取り組みに努める
- (3)職員の円滑なコミュニケーションとチームの絆・繋がりを大切に施設形成に努める
- (4)職員一人ひとりが、組織の活性化と経営に対する意識を持ち、運営・コスト見直し、業務改善に努める
- (5)感染症対策を徹底し、まん延及び拡大防止に努める
- (6)地域貢献事業を継続し、社会との関りを重視した事業運営に努める
- (7)法人内高齢者施設（養護特養、老健）の連携に向けた効果的な運営の実施に努める。

「一人ひとりの「思い」に寄り添い、「ふれあい」
「笑顔」のあふれる施設を目指す」
〜緑ヶ丘ハイツ〜

入所者数を伸ばすため取り組んでいます。職員不足のため現員を60名に設定し運営を進めています。人材確保は困難を極め、今後もより一層厳しい状況が予想されるため、運営方針の変更等を決定し実行に移す一年になります。

今年度も感染症予防の徹底や

コスト管理に心掛け、運営理念に基づいた事業の執行に努めていきます。一人ひとりの「思い」に寄り添い希望に添えるサービスの提供と、選ばれる施設づくり。そして、利用者やご家族を支え、社会に貢献できる人材の育成、生産性の向上に努め、労働環境の改善や、やりがいの持てる職場づくりを目指します。

◎今年度の重点目標

- (1)経営分析し、組織機能の評価運営スタイルを見直す
- (2)人材確保に最大限の力を注ぐ
- (3)一人ひとりが、「人間らしさ」を磨きながら人間性を高める
- (4)施設全体として「専門職としての知識、技術」である専門性を高める

- (5)職員一人ひとりが「気づき」「学び」「繋げる」力を養う
- (6)「最善の方法」を選択し、「実行」できる力をつける
- (7)アセスメントに基づく、根拠と納得のある介護を展開
- (8)「丁寧な言葉遣い」「挨拶」が当たり前に行える職員の育成
- (9)社会人、職員として「法令」と「就業規則・職場ルール」を遵守



「寄り添って、向き合って、一歩一歩 前へ」

しりべし学園

【しりべし学園】

今年度は措置入所16名、契約利用7名のあわせて23名でのスタートとなります。ここ数年、障害児入所施設の減少により道内はもとより、道外からも入所の打診が来る状況であります。現状の職員体制と設備環境の中では定員を満床にできない状態です。そのような中でも、福祉型障害児入所施設に求められる機能（発達支援、自立支援、社会的養護、地域支援）を理解し、利用者個々の障害特性を把握、意思決定支援や権利擁護意識も高め支援の充実に努めていきます。また、利用者個々に合う進路を見出す事ができるよう、関係機関との連携をより一層強化します。「感染症の予防及びまん延防止のための指針」を策定し、感染対策の徹底、安心安全な生活支援を実施するとともに、利用者の声に耳を傾けニーズを把握し、行事や余暇活動の充実を図ります。さらに、法人人事部と連携し職員確保に努めるとともに、良いチームワークの中

で職員の定着、育成に努めていきます。

【南後志児童デイサービスセンター】

3町村の子どもが減少する中、療育のニーズは高く、個別療育を中心に小集団療育も取り入れより一層の療育活動の充実に努めていきます。そのような中で今年度は2名の新しいスタッフが加わる事から、担当ケースをスムーズに移行し、保護者との良好な関係を構築できるような職員間の連携を密にし、相談しやすい体制を整えていきます。療育環境の整備に向けて、既存の設備を可能な範囲で整備しながら使用していきます。



「笑顔があふれる日常を支援します」

しりべし学園成人寮

【しりべし学園成人寮】

本年度は施設入所59名、生活介護54名（通所3名含む）でのスタートとなります。利用者の意思決定の支援・権利擁護の遵守など、虐待の根絶に重点を置き、研修や巡回を行い不適切な支援・虐待ゼロに向けて力を入れて取り組みます。高齢化に伴う障がい者の重度化は著しく、健康管理、健診の重要性に鑑み、障害のある方々への健診体制の拡充と職員の介護技術の習得を目指していきます。コロナ感染予防として基本的な感染対策を実施し、持続可能な事業所運営を行います。

【しりべしワークセンターセオス】

本年度は余市養護学校しりべし学園分校から1名を新規で受け入れ、27名でのスタートとなります。利用者の高齢化により、作業効率の低下が見られるため、利用者の状況に応じた作業の提供を図り、商品の質の向上や製品のPR等から新規顧客の開拓に繋げ、工賃の向上につなげたいです。花の無料配布のほか、

地域貢献3事業については継続して実施します。

【いずみホーム】

高齢者施設移行に伴い、本年度は21名でのスタートとなります。利用者の高齢化が著しいため、高齢利用者が暮らしやすい環境整備を進めていきます。地域貢献1事業については継続して実施します。

【黒松内つくし園特定相談支援事業所】

基本的にしりべし学園成人寮及び後志リハビリセンター利用者の計画相談を実施していきます。年2回のモニタリングを確実に実施し、利用者の意向を反映したサービス等利用計画書作成に努めます。



『人に優しく』

後志リハビリセンター

新型コロナウイルスが認知さ

れて以来、ご家族を始め外部との接触が最小限に制限されて長い期間が経過しました。少しずつ薄れてきた配慮、緊張感、優しさ。改めて、職員対利用者、職員対職員、利用者対利用者での関わりの中でお互いの存在を思いやる心遣い『人に優しく』を意識していきたいと思えます。利用者の高齢化・重度化に歯止めが出来るよう身体機能の低下防止と状態にあった環境の見直しを図っていくこと、定員の充足のための営業活動を活発に進め安定経営を目指します。

世代や性別、国籍の隔てなく協力しながら、職員が働きやすい環境の整備に努めます。

一人ひとりのレベルアップや業務改善・効率化を図りながら利用者の生活を支えていきます。新型コロナウイルスを始め感染症には、これまでの経験を活かし予防対策を継続していきます。利用者の皆様が安心して暮らすことができるよう、また生活が豊かになるための工夫に努めて

いきます。

(1)利用者の意思を尊重した個別支援計画策定と生きがいを感じられる活動や口腔ケア・嚥下訓練、機能訓練、栄養管理等の総合的な支援。

(2)職員個々の理解度を再確認する研修体制の構築。支援に対する最新の技術・情報を共有し、業務レベルの向上に努める。

(3)利用者の権利擁護・成年後見制度の利用促進・地域との交流や地域貢献事業への積極的な取り組み

(4)外国人技能実習生の計画的な育成と日常生活のサポート



『地域の社会資源として、地域に寄り添う施設づくり』

湯の里・黒松内

老健施設としてリハビリテー

ションの提供により、自宅での生活を目指します。利用者一人ひとりが心豊かで快適な生活を営めるように、ご意向や人格を尊重し想いに添えるよう、専門職と一緒に考え必要な支援を提供してまいります。

今年度は介護報酬の改定があり、2025年問題を見越した体系になります。しっかりと国からの指示に則した対応を行い、適正なサービスを提供できるように努力してまいります。近年、光熱費を始めとする様々なコストが増加しており厳しい運営状況にあります。この状況を打破すべく社会資源としての使命をしっかりと確立し、科学的介護(LIFE)の作成、ICT機器の活用による業務効率化を行う事業展開を図って参ります。

地域や家庭の結びつきを重視した運営を行い、市町村や医療機関、その他の関係諸機関との密接な連携を図ります。さらに利用者・ご家族等からのいかなる相談にも親切・丁寧に対応し、

皆様に信頼されるよう努めてまいります。

◎今年度の重点目標

- (1)利用者一人ひとりが心豊かで快適な生活が送れるよう努める
- (2)利用者・ご家族に安心・安全なサービスを提供する
- (3)施設全体が明るく利用者が職員に気兼ねなく声を掛けるように努める
- (4)職員間の良好な関係の構築と心身の健康づくりに努める
- (5)職員一人ひとりが経営に対する意識を持ち運営・コストに対する意識を高める
- (6)法人内高齢者施設(養護・特養・老健)の連携に努める
- (7)施設機能の提供
- (8)地域貢献に努める



「相手に何う」コミュニケーション」
 者が主役に」
 老人福祉施設慶和園」
 何うことでご利用

昨年度は、慶和園中期ビジョンに定める看取りケアに関する取り組みを強化・推進致しました。俱知安厚生病院様より講師（2名：認定看護師科長、訪問介護ST所長）をお迎えし、年2回の「看取りケア研修会」を開催したほか、ご家族との懇談会における「看取りケアの体験談」の共有や地域連携推進会議における看取りケア体制の周知、「ご家族向け看取りケアに関するパンフレット」の製作などあ



ご家族向け看取りケアパンフレット

らゆる場面において慶和園の看取りケアに関する情報発信を行います。地域内での理解を深めた次第です。その甲斐あつて京極町の新年度予算において、当園看取りケアに対する助成をいただくことが出来ました。つきましては、新年度において地域内セーフティネット施設としての役割の強化のために看取りケアの取り組みを推進していきます。

また、今年度はケアの質の向上を図るため、ご利用ケアの基本となる意思決定支援を重点課題とし、個別ケアの取り組みを徹底。ご利用者ご本人への意思確認（1ケア1確認）と活動意欲を引き出すかわり（相手に何うコミュニケーション）を実践します。その他、理念研修の徹底や研修内容と実践状況のモニタリング、職場研修規程に基づく個別指導、ユニット編成の変更による職場風土の改善、他施設見学など視野を広める研修会の設定、ICT活用による負担軽減など、あらゆる取り組みからケアの質の向上を図ります。

◎重点目標 ①ご利用者・ご家族の利用満足度の向上

- ・ 法人理念・福祉職・介護職としての理念に基づく実践を徹底します。ご本人の意思決定に基づくケアの質の向上を目的とし、各種研修会を開催。短時間パートナー職員等も含め全職員の研修受講や研修後の実施状況に関するモニタリングを徹底し、「学んだこと実践」に取り組みます。

②地域における役割を具現化

- ・ 町内のセーフティネット施設として京極町より「地域生活支援拠点事業」を受託。地域におけるバックアップ施設としての役割を理解し、柔軟な受け入れ機能を強化します。
- ・ 「慶和園における看取りケアの実践」を地域へ発信することを通じて、地域住民の「ケアドバンスケアプランニング」を考える機会を創出します。

- ・ 京極町社会福祉協議会との連携のもと、新たな地域住民との交流のかたちやボランティアの受け入れ事業を推進し、地域住民の来園の機会を増やします。

③柔軟な事業運営と経営の健全化

- ・ 介護ロボット導入事業により特養本館居室にAI見守りカメラ



昨年度実施の「理念研修」

ラを導入。ご利用者の安全面（AIによる行動検知）への配慮と職員の負担軽減（夜間居室への見回り回数削減）を図る取り組みを推進します。

- ・ これからの介護職の働き方に考慮し、週休3日制（10時間勤務）の導入を検討。柔軟な働き方を取り入れることで、介護職の新しいワークライフバランスの体制づくりに着手します。
- ・ 情報発信事業（施設パンフレットの更新、インスタグラムの発信強化）を推進し、利用者・職員確保策を強化します。

「新しい道のスタート！生まれ変わる俱知安地区」
 ～俱知安就労支援事業～
 ～俱知安地区～

今年度は前年度決定された複合福祉施設内にある「認知症対応型共同生活介護グループホームつくしんぼ」・「就労継続支援B型事業 陽だまり」の全事業を廃止します。その上で「羊蹄セルプ」への就労継続支援B型事業の統合を行い、新たな俱知安地区として生まれ変わります。



近年の「羊蹄セルプ」・「陽だまり」の両事業所では流動的に活躍できる職員育成を実践してきましたが、それを一旦廃止し、

～俱知安地区～

本年は各セクションにスペシャリストを配置し、利用者に安心して通所していただける支援の提供、安定した通所率の確保を行います。そのため、就労事業統合時の利用者の受け入れ対応や各作業は分担して行い、利用者一人ひとりが不安のない支援を提供してまいります。

事業が一本化されることで共同生活援助事業との支援の結びつきも明確となり、生活から働くまでの一貫した支援の提供が可能となると同時に、連携がより一層強まることから、つくしんぼホームについては従来のおり流動的な職員育成と事業運営を行い、支援以外の俱知安地区全体業務を含め一体的な事業運営を目指します。

この度の事業廃止及び統合により、俱知安地区の事業を利用し住み慣れた地域で生活を続けられた利用者や職員の想いをしっかりと背負い、今後利用者及び地域の皆様方に必要とする事業所運営を職員一丸となつて目指してまいります。

「利用者の笑顔・喜び・生きがいのために」
 ～泊村老人ホームむつみ荘～

2020年1月に端を発した新型コロナウイルス感染症は、昨年5月にインフルエンザと同様、感染症法上の5類に移行されました。このことを受け、本施設では面会の自粛を解除し、10月から居室での面会を再開しました。加えて、むつみ荘祭りははじめとする施設全体行事も再開する等、一日も早くコロナ以前の状態に戻るよう、様々な取り組みを進めました。新年度においてもこの流れを断ち切らないよう、引き続き、感染症対策に万全を期しながら、利用者様の「個人の尊厳」と「暮らしの継続」を守るため、良質なサービスの提供に努めるとともに、利用者様との信頼関係の深化並びに人財の確保・定着をさらに進めます。新年度はこれら取り組みに加え、ユニットケア（個別ケア）の浸透を進めるための一助として、「ユニットケア研修実地研修施設」の指定を目指すとともに、見守り機器等のICTの導入並びに接遇マナーの徹底などを行い、「選ばれる施設づくり」を推進します。さら

には、施設運営の健全化を揺るぎないものにするため、施設稼働率の高水準の維持に努めるとともに、「地域に開かれた施設づくり」を進めるため、新年度より泊村からの受託事業として「配食サービス事業」を実施し、地元住民の方との密接な関係づくりを推進します。

◎今年度の重点目標

- (1)利用者様との信頼関係の深化
- (2)安全で安心な施設づくりの推進
- (3)施設運営の健全化の推進
- (4)地域貢献の推進



新たな職員が仲間入り 2024年度辞令交付式開催

新年度がスタートした4月1日、しりべし学園成人寮「地域交流スペースふらっと」において2024年度辞令交付式が開催されました。

辞令交付式に臨む新任職員17名と昇進の係長2名に、大代理事長より辞令が手渡され、新任職員へ向けて訓示を行いました。一人ひとりが理事長から辞令を受け取り、代表の新任職員しりべし学園の工藤歩未児童指導員から法人職員としての新たな出発に向けた誓いの言葉を述べました。



新型コロナウイルス等感染予防のため、会場入り口では新任職員やご来賓、理事長以下出席者全員に、手指消毒とマスク着用等の感染

対策を行い開催しました。



2024年度新任職員研修会

その後は、新任職員及び2023年度に入職した職員を対象に、新任職員研修会を実施しました。

新任職員研修会では、昨年度に引き続き、従来2日間で行われていた内容を短縮して1日での実施となりました。

創始者である理事長・廣瀬清藏氏の映像を交えて、当法人が設立された経緯や概要などが紹介されました。また、将来的なビジョンや社会福祉法人としての使命について、倫理綱領の説明や、法人職員としての心構え等の講義を行いました。黒松内町からは、ゴミの分別やリサイクル推進等の説明があり、皆さん熱心に研修を受けていました。



2024年度 新任職員研修会 研修プログラム一覧

※敬称略

- ・開会・オリエンテーション
- ① 「社会福祉法人黒松内つくし園 2024年度指針・重点目標」
社会福祉法人黒松内つくし園 理事長 大代 貴輝
- ② 「法人の歴史・今後のビジョン 社会福祉法人としての使命について」
社会福祉法人黒松内つくし園 監事補佐 武井 光秋
- ③ 「倫理綱領についての理解」
理事・ 老人福祉施設慶和園施設長 澁谷 剛
- ④ 「法人職員としての心構え」
常務理事・ しりべし学園成人寮施設長 遊部 眞澄
- ⑤ 「地域住民としての心構え」
黒松内町役場住民課 課長 松原 淳
主任 大石 敏彦
- ⑥ 「新任職員フォローアップ研修」
「虐待防止及び身体拘束についての説明」
法人研修委員会

デイサービスセンター 行事特集!

久しぶりの外食!!

利用者の皆さんからどんなことがやりたいなどの要望やご意見を伺ったところ、「美味しい物を食べに出かけた」という声が多く聞かれました。そこで、



黒松内町内のレストラン「自然の家」へ出かけました。「こうやって皆の顔を見ながら食べるのがいい」「おいしいね」、「食事は美味しかったけど、デイサービスで食べる味噌汁が一番おいしいわ」とのうれしい声も聞かれました。

曜日対抗ミニ運動会!

デイサービスセンターを利用して、されている皆さんで、「曜日対抗ミニ運動会」を開催しています。今回のゲームは、『借り物競争』と『お手玉飛ばし』の2

種目を行いました。

借り物競争は、「歌が好きな人」や「名前の子がついている人」などのお題があり、自ら「はい」と手を上げ一緒に手をつなぎゴールを目指しました。お手玉飛ばしは、大きめのビニール袋に空気をいれてふくらませ、その上にお手玉を置いて両手でポンとたたき飛ばしていくゲームです。点数の書いた紙に上手く飛ばせた時にはとても喜ばれていましたが、マイナス30点の紙にお手玉が乗った時には「ああ」とガツカリ。



ゲームが終わった後は、「疲れただけ今日はぐっすり眠れるね」との声も聞かれていました。今年度の総合優勝は、水曜日と金曜日です。お疲れ様でした。優勝おめでとうございます!



音楽レクリエーションで活性化!

元教員であり黒松内町内で様々な教育活動を行っている丸口弘之先生に来所していただき、音楽レクリエーションを開催しました。

「幸せなら手をたたこう」やイントロクイズ、昭和歌謡など懐かしい曲をギターの演奏に合わせて歌いました。この曲の題名は？歌手名は？の質問に、利用者の皆さんはスラスラと答えていて、脳が活性化されていました。丸口先生の優しい人柄もあり、和やかな雰囲気の中でリラックスして楽しめました。



避難訓練・火防教室開催! 緑ヶ丘老人ホーム

緑ヶ丘老人ホームで、夜間を想定した避難訓練を行いました。宿直支援員2名・管理宿直の計3名で、それぞれ役割分担をして行いました。利用者も職員も職員の指示を受けてスムーズに避難してくれました。避難訓練終了後には、緑の広場に集まり火防教室が開催されました。皆さんも改めて火災の怖さを学ぶことができました。また、避難の基本、「おはしもち」を覚えていますか?と改めて確認しました。「おはしもち」とは、お↓押さない、は↓走らない、し↓しゃべらない、も↓もどらない、ち↓近づかない、という避難の約束事です。いざという時のために備えあれば憂いなしです。



春の訪れに心躍る！ 泊村老人ホームむつみ荘

4月12日、むつみ荘で恒例となつた、施設周辺に自生している山菜を採りに行きました。シロ（野生の小ネギ）を採るのが初めての利用者や、山菜採りが好きで毎年楽しみにされている利用者もおり、「入居前はいろいろな山菜を採りに出かけたんだよ」と話しながら楽しそう



に作業されていきました。収穫したシロは、養護と特養の3階ユニットに持ち込み、利用者がゴミ取りをしてそれぞれ調理し、春の訪れを感じながらユニットでおいしくいただきました。



に作業されていきました。収穫したシロは、養護と特養の3階ユニットに持ち込み、利用者がゴミ取りをしてそれぞれ調理し、春の訪れを感じながらユニットでおいしくいただきました。

「ご厚志に心から感謝申し上げます」
（令和6年1月1日から令和6年3月31日まで）
敬称は略させていただきます

お詫びのご案内

社会福祉法人黒松内つくし園会報「ブナの里」では、個人情報保護の観点から、個人の方からのご厚志の紙面掲載を控えさせていただきます。当法人へのご厚志に感謝申し上げますとともに、ご芳名のご公表を控えさせていただきますことに心よりお詫び申し上げます。

・・・・・
（株）ジャパンクオリティ、北海道信用金庫、ひまわり財団、洞参寺、黒松内つくし園後援会、南後志法人会黒松内地区会、日本児童養護施設財団、2023年度黒松内保育園卒園児保護者一同、(有)光銭商店、一円募金、黒松内つくし園互助会

法人会務の運営状況

(2024年1～3月開催分)

- ◆ 1月16日 施設長・副施設長会議
労務管理研修
- ◆ 1月16日 事務担当者ミーティング
- ◆ 1月23日～24日 監査法人期中往査
- ◆ 2月12日 2024年度人事審査委員会
- ◆ 2月13日 施設長・副施設長会議
- ◆ 2月16日 苦情解決委員会
- ◆ 2月20日 リスクマネジメント委員会
- ◆ 2月22日 事務担当者ミーティング
- ◆ 2月28日 第3四半期監事監査
- ◆ 3月1日 第437回理事会
- ◆ 3月19日～20日 監査法人期中往査
- ◆ 3月22日 施設長・副施設長会議
- ◆ 3月28日 第438回理事会

編集後記

2024年度が始まりました。今年度もこれから決算業務に追われながら、会報編集・広報活動がスタートします。2023年度決算は、会計システム変更等の影響で困難を極めます。これから6月の決算承認まで、しっかりと取り組んでいかなければなりません。

新型コロナウイルス感染症5類移行後も、福祉施設ではまだまだ対策を継続中ですが、行事やイベント、施設の面会などは徐々に緩和しており、ふれあいまつりの開催が楽しみです。

地球温暖化の影響なのか、北海道でも桜の開花がどんどん早まっています。函館はゴールデンウィーク頃咲いていたのが、もう4月下旬でソメイヨシノなどは散っています。早く雪が解けて暖かくなるのは大歓迎ですが、今年の夏も昨年の猛暑以上になるかと思うと恐怖です。北海道でもエアコン設置は必須ですね（昔は涼しかった）。

本年度も各施設広報委員が施設広報誌の作成に一生懸命取り組みます。法人ホームページも、掲載内容の充実を図り、より良い情報発信を行っていきます。当法人会報「ブナの里」と広報委員会をどうぞよろしくお願ひ致します。

岡田

高校生15名へ奨学金贈呈！

4月29日、黒松内つくし園の地域交流スペースで法人の奨学金贈呈式が行われ、15名の高校生（つくし園児童14名）が、奨学金5万円を受け取りました。コロナ禍のため4年ぶりに開催した昨年に引き続き贈呈式が行われ、高校生に直接奨学金を手渡すことができました。



はじめに大代理事長より、この奨学金制度誕生の経緯や歴史、奨学金の原資には多くの皆様のご厚志で賄われていることなどについて説明がありました。また、松田

順子奨学金委員長から高校生に、心温まるメッセージが送られました。

その後、松田委員長より受給者一人ひとりに「奨学金が手渡され、『がんばって下さい』と声を掛けられました。最後に受給者を代表して高校3年生（男子）が感謝の言葉を述べました。



当法人の奨学金制度は昭和52年度に始まり、今年で48回目です。この奨学金は、法人の地域貢献事業として、町内の母子・父子家庭や施設などで生活する高校生と、専門学校で福祉を学ぶ外国人留学生等を対象に、延べ1,022名に総額3,235万円が支給されています。

奨学金を寄付して下さった皆様、心より感謝申し上げます。また、当法人の社会貢献事業「奨学金制度」に賛同していただける方のご協力をお願い致します。

笑顔あふれる入園式！
認定こども園黒松内保育園

4月6日に「第58回進級・入園式」を行いました。今年度は、新園児が10名、昨年度途中入所の園児が3名、そして保護者の方と来賓の方も来園されて、春らしくあたたかな式となりました。

はじめての保育園に緊張する子、お父さん、お母さんと一緒にたくさん笑顔を見せてくれる子と様々な表情が見られました。在園児代表で参加したばんだ組は、上手に座ってお話を聞いたり、元気に「さんぽ」を歌ったり、年長児クラスらしい頼もしい姿を見せてくれました。これからの園生活が安心して笑顔で過ごせるよう、職員一同一人ひとりの心に寄り添いながら、毎日を大切に過ごしていきます。



法人会報「ブナの里」第144号

発行年月日 令和6(2024)年4月30日発行
発行 者 社会福祉法人 黒松内つくし園
発行責任者 法人会報ブナの里広報委員会



社会福祉法人 黒松内つくし園

〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内562番地1
電話：0136(77)2833 FAX:0136(75)7211

E-Mail: honbu1@viola.ocn.ne.jp URL:https://tsukushien.or.jp